

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/>

丹羽療法がついに 世界で認められた

厳しい審査の結果 国際がん専門誌に掲載

INTEGRATIVE CANCER THERAPIES

自然療法が 国際がん学会で 認知は世界初

INTEGRATIVE
CANCER
THERAPIES



この度の東北地方太平洋沖地震により、被害を被られた皆様には、心からのお見舞いを申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

かねてより丹羽先生のインタビューのなかでもたびたび話題になっていた、先生の論文が、がんの専門誌としていちばん権威のある「Integrative Cancer Therapies」

にこのたび掲載されました。これまでも丹羽先生の論文は「活性酸素」に関するものを始めとして多くの医学専門誌に掲載されていきますが、がんに関する論文の掲載は初めて。しかも、抗がん剤や放射線などを用いない自然療法が国際がん学会で認知されたのは、今回の丹羽療法が世界で初めてとなります。

そんな論文のタイトルは「冬虫夏草を含む天然生薬が肝細胞がん患者に延命効果をもたらす根拠について」です。

今回はその経緯や、論文の内容について丹羽先生にお話を伺ってきました。



——先生、おめでとつございます。

このお話が出てから数年かかります。

したが、ようやく実現で、これから反響が大変なんじゃないですか。「ありがとう。さっそく、外国人記者クラブから招待会見の話がありましたね。これからいろいろあるんじゃないですか」

——今回、肝臓がんに関する論文となつていますが、どうして肝臓がんに？

「提出した論文は、肝臓がんだけでなく、10年間の丹羽療法のデータすべてを出したら、審査員が肝臓がんがいちばん効いているから、これに絞ってほしいと言ってきたんです。これね、審査が通るまで3年くらいかかっている。とにかく膨大なデータとあらゆる分析をして出したものなんです。これまでは論文の審査員が抗がん剤を使っている大学の教授ばかりだったから、私の抗がん剤を使うな、副作用で死に至る」という論文は落されていたんです。そこで昨年、方向を変え、抗がん剤は使うな、というのではなく、手術のできな

い末期のがん患者さんたちの丹羽療法による延命効果をテーマにしたのです。それが今回ようやく厳しい審査を通過して掲載されることになったわけです」

——延命ということ？

「一般に手術のできない肝臓がんは



国際がん学会の統計では平均12ヵ月以下で死亡しているのが、私の場合はだいたい55.7ヵ月くらいは生き、冬虫夏草に5種類の私の生薬を併用した患者さんは平均75ヵ月という最長の結果が得られています」

す」

——統計の10倍近いですね。

「最近、国内外で肝臓がんの特効薬として脚光を浴びているネクサパールという抗がん剤があります。当然、副作用はものすごく強い

です。この鳴り物入りの新薬で進行

肝臓がんの患者さんが10.7ヵ月延命

します。しかし私の治療では同じ

ステージの患者さんは15.5ヵ月生きて

います。しかも、私の治療は化学

薬品とは違って副作用がない」

——どうして肝臓がんに効果があるのでしょうか？

「あのね、丹羽療法、サンドバス、

SOD、冬虫夏草などの生薬で細胞

の隅々まで元気になると、おの

ずと肝臓も元気になる。肝臓と言

う臓器は、体に入ってきた悪いも

のを浄化する臓器なんだ。抗がん

剤を使うと、一番最初にダメージ

を受ける臓器は肝臓と腎臓。ここ

がダメになると体の浄化作用がな

くなるから体中が弱ってしまう。

丹羽療法は基本的に肝臓が元気に

なる治療をするから効くんです。

自然の生薬、簡単なもので作った

生薬のほうが、抗がん剤で苦しん

で死んでいくよりも長生きできる。

いい例がアルコール。SODを飲ん

でいけば、二日酔いになることが少

ない。肝臓が元気だからすぐにアル

コールを浄化してくれるわけです」

——なるほど。これまで丹羽療法

はエビデンスがないと言われてき

たことが、今回の掲載で言われな

くなりませんね。誹謗中傷も吹き飛

びますね。

「そうなんだ。これまで抗がん剤の

ようにマーカーの縮小効果だけで

対抗していた西洋医学のドクター

たちに、丹羽療法は効いていない、

学会で認められた証明がない」と

言われてきました。それがようやく

抗がん剤を使っているドクター

たちも認めていたただかざるを得な

くなった」

——この論文のなかには冬虫夏草

だけでなく、SODのことなども

載っているのでしょうか。

治療の実態なのです。

ここ6年間で、私の3000人のがん患者さんの治療実績と、国際がん学会の抗がん剤を使って亡くなられた患者さんの延命日数を比べますと、私の治療で成績の悪いがんではほとんど延命期間は同じです。しかし、たとえ同じ延命期間で亡くなっても、苦しまないだけ私の治療の方がいいと思います。私の治療で成績のいいものは、AML(急性骨髄性白血病)、MD S(骨髄異型性症候群)、悪性リンパ腫、T細胞系腫瘍、肺がん、胃がん、乳がんなどです。これらは国際がん学会で発表されているがんの進行および、進行・末期がんの患者さんが抗がん剤治療を受けて苦しみながら延命する延命期間と比べて、約2〜4倍の期間延命しています。AML、MDS、悪性リンパ腫、T細胞系の腫瘍はもつと延命している患者さんもいます。そしていちばん長いのが今回の論文にも発表された肝臓がんです。

論文にある、私の開発したユニークな焙煎、発酵、油剤化(これは天然の植物種子の中に含有される抗酸化作用・制がん作用を増強、活性化させる加工法)で加工した

十数種類の天然の制がん剤を3〜5種類、病名病状、ステージによって選択して内服してもらいます。また、入院していただくと、正常な細胞を活性化させ、がん細胞増殖を抑える、4〜14ミクロンの強力な遠赤外線を放射する岩石をミクロンサイズに粉碎し、ボール状に小さく丸めた石で作ったサンドバスに入浴していただき、さらに成分療法や多種のビタミン剤注射などを追加し、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を保って患者さんの延命効果を高めます。特に特筆すべきことは、ここ10年間、積極的に使ってきた冬虫夏草です。これがいちばん制がん効果があることが分かりました。冬虫夏草自体のメカニズムや動物に使用した場合の細胞への効果、

制がん作用などは欧米の論文にもたくさん出ていますが、私のように臨床成績の発表は世界で初めてのことでです。

こういう副作用のない天然の成分だけで作られた抗がん治療が、国際医学会の雑誌にアクセプトされ認知されたのも世界で初めてです。何十、何百という漢方の治療がありましたが、国際的には未だに認知されていません。

もう10年も前から抗がん剤は、がんの縮小効果はあるが、延命効果は(特殊なものを除いて)わずか2、3カ月の違いで副作用が出て苦しんで死ぬので、もう欧米ではファーストチョイスで抗がん剤は使いません。さりとて、欧米ではそれに取って代る薬がありません。私の論文も治療も、そういう意味で世界のがん治療の学者が待っていた最高の救世主だと言えます。

ジェナー動物クリニック院長
長瀬先生の
私の診察室
より
第6回



患者さん：ジヨナサン
犬種：ミックス犬

去勢オス 11歳(25.92kg)
初診時の主訴：「脾臓にできた血管肉腫を摘出したが、その後のケアはどうすればいいのか？」

動物医療における統合医療のトップランナーである長瀬雅之先生。この連載では長瀬先生の診察風景をお届けしています。今回は血管肉腫の手術をしたワンちゃんが登場です。長瀬先生は今回、はたしてどんな診察とアドバイスをするのでしょうか。

化学療法に加え、

SODと生薬で延命を

長瀬先生 ジョナサンのこれまで
の経過を教えてくださいか？

Iさん (ジョナサンの飼い主さん)

3日前にドッグランで顔色が見
るみる悪くなって動かなくなり、
すぐにかかりつけの病院に連れて
行きました。脾臓に血管肉腫があ
ることがわかり、すぐに手術しま
した。主治医のS先生は外科手術
が上手で、短時間のうちに的確に
脾臓のがんを摘出してくださいま
した。あの状況下では、ベストな対応
だったと思っています。

長瀬先生 脾臓の血管肉腫を手術
すると、術後どんな経過が順調
であったも、肝臓や心臓、脳に転
移し、余命1ヵ月から3ヵ月程度
の症例がほとんどなのです。私は、
これを「血管肉腫のシンデレラ・タ
イム」と呼んでいます。しかし、副
作用の少ない化学療法に生薬療法
などをうまく組み合わせれば、もつ

と延命できる可能性はあります。

Iさん 何としても、できるだけ
長く生きてもらいたいです。私は

S先生の手術の腕はとも信賴し
ていますが、術後の治療となると

化学療法がメインになると思うん

です。ですから、術後の内科的な
治療に関しては、あらゆる角度か

ら腫瘍治療法の可能性を探ってい

らっしゃる長瀬先生のお力もお借

りしたいと思ってきました。

長瀬先生 わかりました。うまく

2人の先生を使っていきたいとい

うことです。私もS先生のこと

はよく存じ上げています。S先生

には化学療法をお願いして、私は

それ以外の生薬や免疫療法を提供

することにしましょう。早速、当

院オリジナルの生薬を処方します。

Iさん 具体的にはどんな治療を

するんですか？

長瀬先生 まずは、「(術後にも)

残存しているであろう腫瘍細胞の

クリーンアップ」が必要です。は

じめに抗腫瘍抗生物質(抗がん剤)

である「ドキシソルビシン(アドリ

アマイシンR)」を点滴静脈注しま

す。このお薬は骨髄抑制が強く、

総投与量に限界があるため、21日

ごとに3回投与した後、間隔を

空けて投与するのがコツと言いま

す。この薬を投与してから1週間

後、今度は、「ビンクリスチン(オ

ンコピンR)」(抗がん剤)を静注

します。この薬は副作用が少なく、

生薬との相性も良いので、21日ご

とに投与してください。そして、

あまり使いたくありませんが、「デ

キサメサゾン(デカドロンR)」(ス

テロイド)を3日ごとに服用して

ください。それにDIC(播種性

血管内凝固症候群)を予防する目

的で「カモスタットメシル酸塩(リ

ピリスターR)」も必ず服用しま

しょう。ここまでの治療はS先生

のところでできますね。

こうした最低限の化学療法を実

施する一方で、生薬療法を取り入

れます。生薬は「H-TT」と「N

K-3」を使います。「H-TT」は

腫瘍免疫能の向上のためです。「N

K-3」は腫瘍免疫能の向上に加え

て、腫瘍細胞のDNAにも作用す

る優れた抗腫瘍系生薬です。あと

は、化学療法の副作用を軽減する

目的で、必ずSOD(獣医用SO

D(顆粒))も服用してくださいね。

SOD様作用食品 体験者の声を お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、
少しでも早く良い治療法に
行き当たるように、本誌で
は愛飲者の声を募集してい
ます。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

TEL 03-5787-3498

までご一報ください。

丹羽先生の開発した 生薬をペットにも応用

ーさん 生薬は土佐清水病院の丹羽耕三先生が開発したものを基礎にしているんですね。それをほかの動物病院でも処方してもらうことはできないんですか。

長瀬先生 残念ですができないんです。丹羽療法に用いる要の生薬は、使い方に独自のノウハウがあるため、門外不出なんです。ただ、「獣医師用SOD（顆粒）」は一般の動物病院でも購入可能ですから、かかりつけの先生に相談してください。

そしてできれば、化学療法と生薬療法に加えて、「LAK療法（養子免疫療法、または活性化リンパ球療法）」を併用した方がいいでしょう。LAK療法とは抗腫瘍リンパ球（T細胞とNK細胞）を含む末梢血単核球を採取して、試験管の中で増殖・活性化させた後に再び身体に戻す方法です。もっと簡単

に言うと、ジョナサンが本来持っているがんと闘う力をちょっと借りて、それを強力ながん狙撃大部队にして戻してあげる治療法です。ーさん 是非その方法も試してみたいと思います。

長瀬先生 この療法を実施するためには、ジョナサンの血を15cc採って、単核球を分離・培養します。当院は細胞培養室を完備していますので、ドキソルビシン（抗がん剤）によるクリーンアップの前に採血しておくだけです。とつても簡単で、ジョナサン自身の細胞ですから、当然副作用はありません。

ただ、こうした治療を円滑に進めるためには、副作用が比較的強いドキソルビシン（抗がん剤）投与を乗り切ることが最低条件ですね。ジョナサンに重篤な心疾患がなければ、このお薬に耐えられるはずですが。本日、診させていたただいた限りでは、心臓には問題はなさそうですが、念のため、ドキソルビシン投与前にも心雑音などを

チェックしてもらってください。ーさん 明日にはそのお薬を打つてもいいんですか？

長瀬先生 今は手術直後で、ジョナサンの体の中で、治ろうとする免疫が活性化している状態です。それなのに抗がん剤を使ったら、せっかくの免疫が落ちてしまいますよ。ーさん ではその治療をスタートするとしたら、抜糸の後ぐらいがいいのですか？

長瀬先生 そうですね。抜糸して、S先生がジョナサンの健康状態が良好と診断したら、ドキソルビシン（抗がん剤）を打ってもらおう。それまではHITT、NK-3、そしてSODを服用して体調を整え、LAK療法のための採血をしましょう。また、採血まではデキサメサゾン（ステロイド）を極力使わないでください。免疫を調律しているのにステロイドを使うと意味がなくなるので。

S先生は信頼できる先生です。あくまでS先生がメインで、私は

サブに回ります。来院は、抗がん剤を投与した後、月1回程度でかまいませんよ。

これから何かと大変かもしれませんが、そんなにシリアスに考えなくてください。何とかシンデレラ・タイムを延長できるように頑張ります。それではドキソルビシンを注射する前に採血に来てください。（診察した日2011年9月下旬）

ポイント

手術と化学療法だけではダメ。
生薬療法だけでもダメ。
できる限り副作用の少ない治療法を
巧みに組み合わせることが、
がん治療における統合医療
なのかもしれません。

